

## 社会貢献型自販機の設置にご協力を

理事長 永田 近



特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会は、ボランティア活動に参加したいと思っても参加出来ない多くの人たちの希望が叶えられる社会貢献型の「ゆび募金」清涼飲料自動販売機の普及活動を推進しています。

売上げの中から生まれる寄付金は福祉、環境、教育、国際貢献の各分野で活躍する社会福祉団体に寄付されますので、1本購入することがボランティア活動への参加につながります。また、自販機の設置にご協力いただいたロケオーナーの方々にもボランティア活動に参加していただける機会となります。

ペットボトルのキャップの回収、リサイクル活動も全国的になってきました。当協会はNPO法人エコキャップ推進協会とのコラボレーションも視野に入れます。「この潤いが小さな社会貢献へ」と同推進協会の「地球に愛を 子どもに愛を」の理念を実現するために社会貢献型自販機の設置と設置場所の提供やご紹介にご協力をお願いいたします。

## 環境・リサイクル活動を推進

会長 松谷 高顕



自販機のボタンを押すことから生まれる潤い、それは「ゆび募金」と言う名称で社会貢献に寄与しています。設置者、購入者、飲料メーカーの三者が心を結ぶことで募金が形成されます。“やさしさのトライアングル”ともいえるのではないのでしょうか。

「ゆび募金」は、皆様の善意をさまざまな団体の活動を通じて伝えます。今日、社会貢献は私たちのパートナーとして受け入れられつつあります。ジャパン・カインドネス協会は今年13年目を迎え、飲料自販機による社会福祉サポート・システム運営のリーダー的存在として多くの方々に認められるようになりました。

これからは、環境への配慮、リサイクルということにも関心を払いながら活動を進めていきたいと思えます。

「ゆび募金」へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## ジャパン・カインドネス協会の事業

ジャパン・カインドネス協会の大きな事業はストップ地球温暖化と社会貢献です。このため、「ゆび募金」自販機もCO<sub>2</sub>の削減効果が顕著な省エネタイプ、自然冷媒を使用したノンフロン機を主力にして普及・推進を進めています。

また、心臓発作などの急病人を救う自動対外式除細動器(AED)搭載機や防災型自販機も備え、社会に役立つ自販機の普及をめざしています。「ゆび募金」自販機から得られる寄付金は有用な社会福祉ボランティア活動(福祉・環境・教育・国際貢献)に定期的な贈呈を行っています。どうぞ、絶大なご理解とご支援をお願いします。

ジャパン・カインドネス協会は、新たに「ゆび募金」自販機を設置していただいている企業との提携ポスター(最大A1判)の作製業務を始めました。積極的に社会貢献している企業の姿勢と当協会とのマッチングをPRするのが目的。ご希望により、社の内外に掲示できるものを作製します。



## 編集後記

「皆様に読んでいただける価値ある情報とは、なにか」、「どのような形式が良いか、タイトルは、活字の大きさは」…。ゆび募金だよりの発行は、文字どおり無から有を生む作業そのものでした。試行錯誤の連続でした。しかし、取材や編集は、「ゆび募金」自販機のPR、普及を通じて社会福祉への貢献を目指す協会の存在を、より多く知っていただきたいとの一心で進めました。

1面の「クローズアップ」取材は漁船海難遺児育英会の全面協力をいただきましたし、東邦ホールディングス、瀧野川信用金庫などにも大変お世話になりました。「ひと口雑学」、「ご存知ですか」などは全国清涼飲料工業会の資料提供から生まれました。心から感謝いたします。(東風)

# ゆび募金だよりの

会報 第1号 平成21年6月1日発行 年3回 2月、6月、10月

特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会  
〒186 0004  
東京都国立市中1-18-41 栄ビル301  
TEL 042-571-2233  
FAX 042-571-2263  
Eメール info@jkkyoukai.com  
URL http://www.jkkyoukai.com/

## クローズアップ 海難遺児を支える育英会

平成20年6月23日。この日、福島県いわき市の小名浜漁港は深い悲しみに包まれました。

小名浜機船底曳網漁業協同組合所属の巻き網漁船「第58寿和丸」(135ト・今野恵洋船長=宮城県石巻市=乗組員20人)が千葉県・犬吠埼灯台の東方約350<sup>キ</sup>の沖合で転覆、沈没。僚船が救助に急行し、3人は助けたものの、4人は死亡、13人が行方不明になったのです。

その後、不明の13人は死亡と認定され、事故は重大海難事件に指定されました。原因は未だ明らかになっていません。この年、漁船海難関係の死者・行方不明者は前年の50人を大幅に上回る96人(総数の77%=海上保安庁統計)に達しました。

船体は水深5000<sup>ミ</sup>の海底に沈んだままです。同船を所有する酢屋商店(いわき市小名浜)の野崎哲社長はじめ、遺族や関係者は全国から約14万人もの署名を集め、深海探査艇の出動による原因究明を国に求めました。今年1月には代表者が国土交通省を訪ねて直接嘆願しました。しかし、探査艇の出動については省庁間の難しい調整が必要でなかなか結論は出ません。「結局、縦割り行政の弊害がこんなところにも出ちゃうんだよな」。小名浜漁業協同組合の大貝賢次さん、小名浜機船底曳網漁協の柳内孝之さんは眼前の海に視線を向けながら、異口同音に無念の思いを語ります。

原因究明もさることながら、かけがいのない夫や父、一家の大黒柱を一瞬にして失い、幼い児童や生徒が残された家庭の悲しみや、養育問題に関わる精神的、経済的不安感は図り知れません。

昭和40年10月、マリアナ諸島アグリガン海域で遠洋かつお一本釣漁船が遭難。乗組員209人が一挙に犠牲となり、大勢の児童・生徒が突如として海難遺児になる事態が起きました。

遺児を励まし、学業の継続を支えようとする気運は、この事故を契機にして全国的に高まり、いくつか曲折を経ながら、昭和45年10月29日、「財団法人漁船海難遺児育英会」(東京・千代田区内神田)が設立されました。

当初、給食費でいどの学資給与で発足した育英事業はその後小、中学生に対する入学祝金、幼児(満3歳~5歳)の給与事業や大学生に対する奨学金の貸与事業を開始するなど年々充実。今年は平成12年以降据え置きだった育英資金額を大幅に増額改定しました。

「第58寿和丸」の場合は、2家族の5人が同育英会の奨学金受給対象者になりました。いわき市から110<sup>キ</sup>ほど北に離れた相馬双葉漁業協同組合相馬原釜支所(相馬市)所属漁船の場合は平成6年12月に「水神丸」が沖合底曳網漁業に従事中遭難し、甲板員1人が死亡、船長ら5人が行方不明。19年12月には「第1颯丸」で揚網作業中の船長が船上で労災事故に遭い、計2家族3人が受給の対象になっています。

### 漁協関係の「ゆび募金」自販機普及状況

設置地区	設置団体
宮城県日南市	日南市漁協女性部加工グループ
宮崎県南郷町	有限会社 華想
鹿児島県阿久根市	北さつま漁業協同組合
富山県黒部市	くろべ漁業協同組合
広島県東広島市	早田原漁業協同組合
東京都千代田区	コープ産業株式会社
熊本県上天草市	スタートショップ・ヒラタ
神奈川県横浜市	横浜市漁業協同組合

(平成21年5月末現在)



▲左から、大貝賢次さん、仁木克己さん、柳内孝之さん

◀相馬双葉漁協理事・岩崎孝さん

受給対象者が少ないと思えるかも知れません。それは、乗組員が若い夫や父でなく、子供を育て上げた年配者が多いため。高齢化現象は漁業の世界にも及んでいるのです。沿岸地区漁協数1088(平成20年度・全国漁業組合連合会調べ)を誇る海国ニッポンの「魅力ある漁業」づくりは急務です。

育英事業を進める漁船海難遺児育英会は発足以来1万人余りの奨学生を育成してきました。平成20年度の奨学生は約300人。事業の柱は学資給与事業と奨学金貸与事業。奨学金を生み出す「水色の羽根募金」、奨学生の親代わりとなって定期的に送金する「励ましおじさん・おばさん」制度を進めています。「ゆび募金」清涼飲料自販機の普及事業を通じて社会福祉に貢献するNPO法人「ジャパン・カインドネス協会」は「水色の羽根募金」に定期的な寄付を行うことによって海難遺児を励まし続けています。

「お母さんの中によろやく最近笑顔を取り戻した方がいます」。相馬双葉漁協理事、岩崎孝さんの実感からは、海難事故の悲運を乗り越えていこうとする遺族の懸命な姿が浮かび上がります。漁船海難遺児育英会の佐藤信三専務理事は言います。「海難遺児を支援、応援して下さる全国の関係者にはただただ感謝です。遺児はしっかりフォローします。それにしても、事故がなくなれば嬉しい…」。

「第58寿和丸」事故から間もなく1年。海難事故の犠牲になった遺族それぞれの胸中を思えば、私たちは福祉事業に一層力を入れなければなりません。(菅原順臣)

# 社会福祉に貢献する 東邦ホールディングス株式会社

「ゆび募金」自販機216台（今年3月末現在）。

ひとつの企業グループが、13年間で社会貢献型の清涼飲料自動販売機を設置した台数です。それは、「共創未来」を理念に掲げ、顧客の満足度を高め、生活者の健康増進と快適生活の実現を目指す薬品会社の社会貢献に対する熱い思いを表わす大きな数字でした。

昭和23年（1948年）9月、東京・世田谷区代沢で誕生した東邦薬品株式会社。創業者の松谷義範氏らメンバー10人でスタートした同社は、筆舌に表わせない艱難辛苦の連続でした。時には売り上げが低迷し、資金繰りもままならないことも…。しかし、松谷氏は「一度掲げた旗は絶対下ろさぬ覚悟」でメンバーたちと必死に闘い続け、今日の地歩を築きました。闘いの原点は創業以来心がけた「人間起点経営」だったということです。

現在は社員数5000人を超える卸薬業界の中核的存在。平成16年（2004年）には東証一部に上場を果たしました。また、4月1日には持ち株会社制に移行して「東邦ホールディングス株式会社」（濱田矩男社長）を発足させ、傘下の医薬品卸事業「東邦薬品」、調剤薬局事業管理会社「ファーマクラスター」の2本柱を中心にした新体制を築き、新たな飛躍を始めました。

そして、社会貢献につながる「ゆび募金」自販機との交わり。歴史を振り返る時、同社グループの発展は「ゆび募金」自販機の普及を進めるジャパン・カインドネス協会の歩みと無縁ではありません。

同社グループは以前から独自に自販機による募金活動を展開していました。しかし、平成8年、当時の松



谷高顕社長が同協会の存在や活動状況、理念などを知って共鳴し、第1号機を社内に設置。以来、同社グループ企業の社会的責任（CSR）を貫く意味からも「ゆび募金」自販機の設置、普及に力を入れてきました。

同社グループには独自の社会貢献ファンド「東邦基金」があります。自販機の売り上げから生み出される寄付金の多くは、同基金に繰り入れられる“指定制”。ただ、自販機によっては設置地で活動する社会福祉団体などに優先寄付する配慮も怠りません。ここでも地域密着という同社グループの基本姿勢が鮮明に打ち出されています。

卸薬業界における同社グループ全体の発展・拡大はますます期待され、医療の充実と人々の健康保持に大きく貢献し続けるでしょう。そして、CSRや社会貢献に賭ける姿勢、「ゆび募金」自販機の普及・設置も揺るぎなく…。

設置台数216台は、まだまだ、通過点です。

## 私と「自販機」

小銭で買うのが、どうも面倒くさいんですよ。お財布携帯が使えるタイプがもっと増えてもいいんじゃないですかね。それに、屋内設置の自販機には夏場でもホットな飲み物も入れてほしいね。

（東京・日野市 男性Y. Mさん）

たくさん種類があるので、どれを買うか、選ぶのが楽しい。ですけど、迷いすぎて買うのをやめてしまうことも…。（北海道・室蘭市 女性T. Aさん）

いつ行っても込んでいないお店やさんっていう感じ。だから、緊急の時なんかはありがたいです。

（東京・八王子市 女性H. Yさん）

のどが渴いた時、コーヒーが飲みたくなった時、まずは自販機を探しますね。便利なんですよ。

（広島県・福山市 女性Y. Tさん）

### ひと雑学 そもそも清涼飲料水って？

清涼飲料水は、一般的に薬や酒、乳関係製品以外の飲料を指し、ミネラルウォーター類、炭酸飲料、非炭酸飲料に大別されます。暑い時、のどが渴いた時、清涼飲料水のひと口は、なんともいえない爽快感がありますね。種類によってはエネルギーや栄養を補給する役割もありますので、高い品質、安全性、信頼性が求められるのです。

# 育て！盲導犬—滝野川信金

## 「ゆび募金」自販機の設置で応援

「たきしん」の愛称で親しまれている瀧野川信用金庫（荒木正夫理事長＝本部・東京都北区）は、今年2月23日、創立70周年を迎えました。経営の基本方針は「金融機関の在り方に徹し、地域中小産社の繁栄に奉仕して社会に貢献する」—。32文字で表わされている姿勢は、金融機関として徹底的に地域経済の活性化に取り組み、同時に社会貢献を具体的に展開しようという意気込みと読み取れます。

本支店数は現在32店舗。奇しくも基本方針の表示文字数と符号します。いち早く社会貢献に取り組んだのは、ペットボトルのキャップを集めて小児ポリオワクチンの供給につなげるエコキャップ運動。全店舗の店頭ロビーにキャップの回収ボックスを備え、お客様や職員が持ち込むキャップを積極的に回収しています。

「さらに社会貢献の方法はないか」。社内のムードが盛り上がるなか、業務部次長の渡邊美孝さんはインターネットでいろいろ検索した結果、ジャパン・カインドネス協会の「ゆび募金」自販機に出会いました。実績はもとより、CO<sub>2</sub>の削減につながる省エネタイプ自販機、地球温暖

化への影響が少ない自然冷媒使用のノンフロン自販機などの普及を進める同協会と信用金庫のスタンスが一致。導入はスムーズに決まりました。

常務理事、山森健男さんは通勤の行き帰り、JR田端駅付近で目の不自由な乗降客をしばしば見かけて心を痛めていましたから、「財団法人日本盲導犬協会」に「ゆび募金」寄付金の贈呈プランが出た時は即座にOKしました。

今年2月、「ゆび募金」自販機はまず本店に設置されました。常勤理事、薄井康次さん、業務部長の人見進さんらはエコキャップ運動と同時に「ゆび募金」自販機の配置も推進しようと全店舗を回りました。職員の反応は上々。

設置の条件などを整え、東十条、西ヶ原支店などを手始めに順次設置を進めていく計画が固まりました。

社会貢献の具体策として先んじて導入したエコキャップ運動は、すばらしい実績です。この

運動はキャップ回収→リサイクルメーカーに売却→売却益をワクチン寄贈団体に寄付→途上国にワクチン供給というシステム。5月11日現在、同信用金庫に集められたキャップは計22万3240個。279.1人分のワクチンが生み出される量です。また、キャップがゴミとして焼却処分されれば大量のCO<sub>2</sub>が発生するわけで、同信用金庫の回収量はCO<sub>2</sub>の発生を1758.02kg削減できる計算になる（エコキャップ推進協会の試算）そうです。

「ゆび募金」自販機の設置計画が進んでいけば、エコキャップ運動も同時並行的に拡大されていく期待が高まる同信用金庫の取り組み。それは企業としての信頼性の確保はもとより、地域金融の安定や発展を支える金融機関としての、示唆に富んだアクションと言えます。



### ご存知ですか—清涼飲料水の始まり

#### クレオパトラが元祖？

古代エジプトに君臨した「絶世の美女」、クレオパトラは美容と不老長寿の秘薬として真珠をぶどう酒に溶かして飲んだのが炭酸飲料の始まりという伝説があります。ローマ時代、人々は炭酸ガスを含んだ天然鉱泉を保健薬代わりに飲んでいたり。日本に伝わったのは1853年（嘉永6年）、ペリー提督の艦隊が積んできたレモネードが最初だとされています。